

登別立正学園が運営する。

白老町虎杖浜の海の子保育園で23日、論語を活用した道徳教育が行われた。「宥坐之器（ゆうざのき）」を使って、バランスの大切さを学んだ。

同法人は、2016年度から登別市と連携して論語を活用した道徳教育を推進。今年4月から運営している同園でも同じ取り組みを展開してい

り、意味を紹介したりした。

この日は、登別市職員で孔子76代子孫でもある孔佩群さんが講師を務め、事前学習で学んできた「過ぎたるは猶（な）お及（およ）ばざるがごとし」について

学習。最初に園児全員で論語を唱和し、数人が前に出て暗記した論語を発表した

その後、孔さんが用意した「宥坐之器」に水を入れてバランスの大切さを体験。水を入れる前は傾いている器も水を入れることで真っ直ぐになるが、入れすぎるとひっくり返って水がこぼれてしまうという孔子の教えを表現した「宥坐之器」

論語活用 道徳学ぶ

白老 海の子保育園

に、園児たちも様子をしながら水を入れたりしていた。

孔さんは「子どもは純粋な心で学ぶので、孔子の教えをすぐに吸収できる。小さなころから正しい教えを伝えていくことが大切」と話していた。

同園では毎日10分程度、論語の学習を行うとともに、今後は毎月1回、孔さんを講師に招いた学習を行う予定だ。



「宥坐之器」を体験する園児たち